

山田白山宮十二坊塔碑 (山田神社門前遺跡群)

【お問い合わせ】

玉名市教育委員会

文化課文化財係

TEL:0968-75-1136

bunka@city.tamana.lg.jp

中世以来の景観に残る石造物群



山田日吉神社へと延びる道と集落

山田の集落は、南北に細長い丘陵上に形成され、その北端に山田日吉神社が所在します。日吉神社は元々、比叡山^{ひえいざん}にあって、神仏習合によって全国に広まりました。この山田一帯は、天台宗^{てんだいしゅう}の拠点的な地域であったと考えられ、丘陵全体が「玉名の比叡山」ともいべき状況でした。道路の両側に白山宮十二坊^{はくさんぐうじゅうにぼう}が配置されていますが、白山信仰は、平安時代頃から山で厳しい修行を行う修験道^{しゅげんどう}と関係し、盛んになっていきます。

「坊」とは、修行をする場所や宿舎がある施設のことです。山田の集落には十二か所の坊と、それぞれに信仰の対象となる石塔が設置されているのが特徴です。

～ 山田日吉神社周辺に残る文化財 ～



山田日吉神社



けんちょうにねんめいほうどう 建長二年銘宝塔

(市指定文化財)

1mを超える巨大な宝塔で、正面に釈迦如来と多宝如来の梵字^{しょうかにょらい たほうにょらい ぼん}二字を刻み建長2年(1250)に藤原太子^{ふじわらたいし}の供養のため建立したことが刻まれています。

山田の藤 (県指定天然記念物)

山田日吉神社の境内にあり、樹齢は200年を超えています。4月中旬には1mを超える花房が垂れ、ライトアップもされます。



じゅうろくばし 十六橋 (市指定文化財)

境川の上流にあり、明治16年に架橋されたといわれています。花崗岩を利用した石造の刳橋で、長さは7m。県内でも珍しい石造橋です。



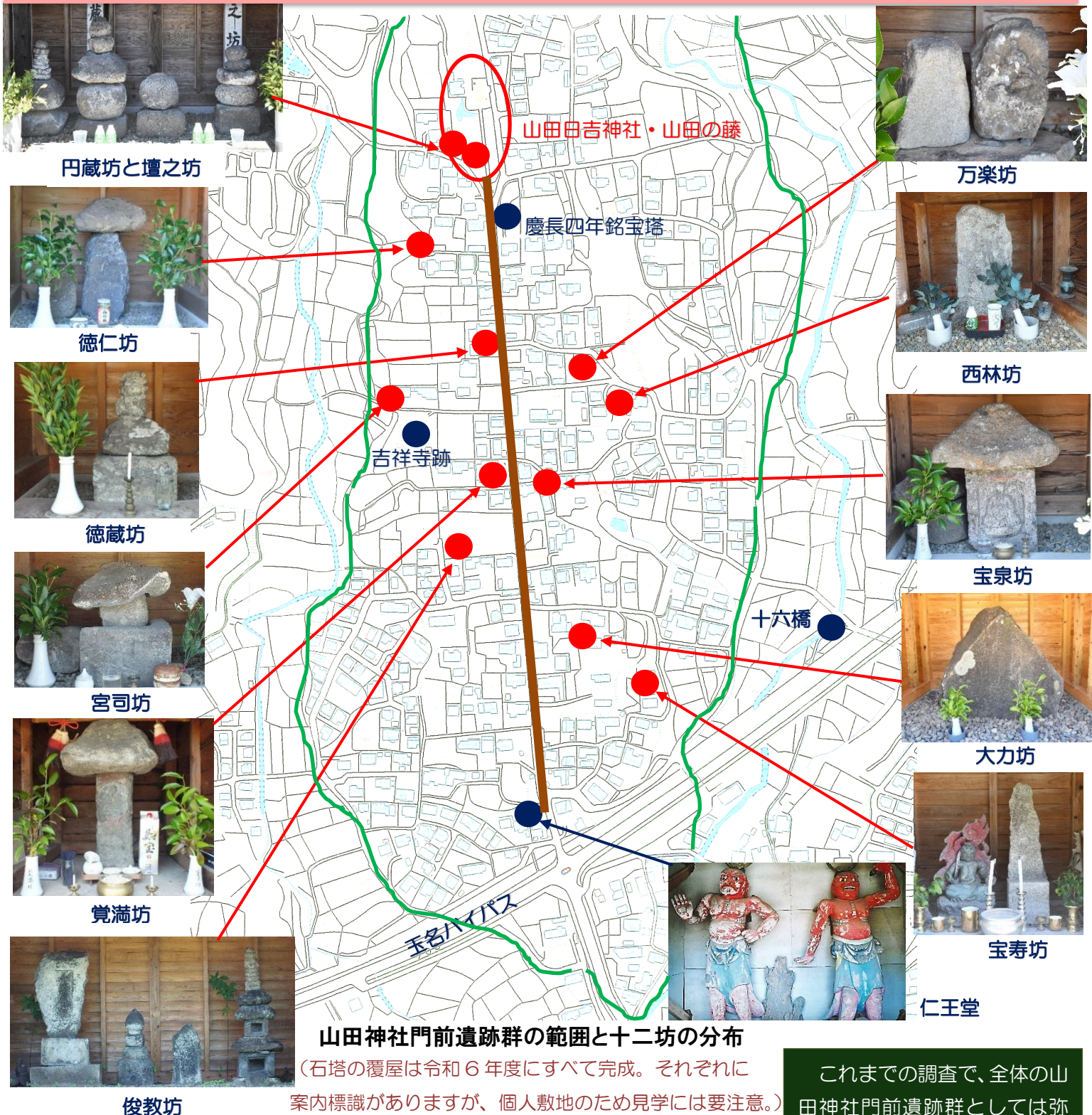
けんちょうよねんめいほうどう 建長四年銘宝塔

(市指定文化財)

正面に二体の如来像が浮き彫りされ、背面に楷書で長い銘文が刻まれています。鎌倉時代の文献史料が少ないため、大変貴重だとされています。

“十二坊古塔碑”の分布と出土遺物

山田の集落は中世以降に形成されたと考えられ、現在も坊の区画が竹藪や石垣・生垣となっていて残っています。日吉神社へ延びる道は、かつて馬場と呼ばれ、集落の入口には仁王堂があります。白山宮十二坊は室町中期には成立していたと考えられており、天文2年（1532）以来の祭礼記録帳と石造物は市の有形民俗文化財として指定されています。



覚満坊跡出土の土師皿



大力坊跡出土の土師皿



俊教坊跡出土のミニ硯

これまでの調査で、全体の山田神社門前遺跡群としては弥生時代の甕棺なども出土していますが、十二坊に関連する中世の遺跡として、覚満坊跡から焼土を含む土坑や土師皿が出土しており、俊教坊跡からは携帯用とみられる約6cmの硯が出土しています。